

# はこだての未来・教育フォーラムの開催報告について

## 基調講演「地域の教育力の醸成のために」 講演内容概要

講師 岐阜県立可児高等学校教諭・中央教育審議会専門委員 浦崎太郎 氏

### (1) いま 可児市で何が起きているのか

少子高齢化を踏まえ、人口減少トレンドにあっても学校の機能を強化するため、県教委において「県立高校改革リーディング・プロジェクト推進事業」が始まったことを受け、授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、地域課題解決型キャリア教育を推進するために『エンリッチ・プロジェクト』を企画し、学校と地域が連携することによって人づくりとまちづくりを一体的に推進していこうという事業を展開している。



#### 事業の主な内容

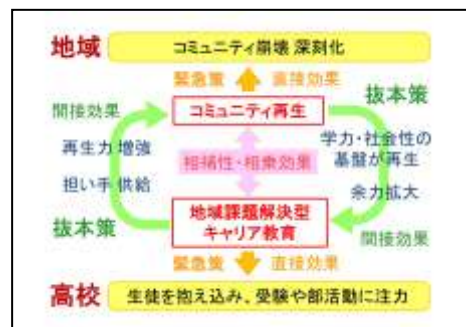
- ・地元で活躍する大人たちの話を聞き、地域課題の解決について一緒に話し合う。
- ・地域医療や防災など地域課題解決のための講座に参加する。
- ・修学旅行において、国の機関や地方公共団体の職員とディスカッションする。

#### 主な成果

- ・生徒の意識変革（進路の選択肢の拡大、目標意識の確立）
- ・地域課題に関わる事業等への企画段階からの参加（若者ならではのアイデア）
- ・生徒と関わった大人が初心を取り戻し、活力になる。

### (2) 高校と地域が協働すべき必要性・必然性

地域力によって支えられていた生活（地域・家庭）における豊かな遊びが失われ、それを学校側が引き受けざるを得なかったことから学習内容の削減・深まりの不足によって学力が低下しているうえ、現代では地域社会に残って働くためには6次産業化や自力で起業・創業していく力が必要となることから、高校を卒業した生徒が地元を離れ、戻って来ることができないのが現状となっている。



これを解決するためには地域力を回復するとともに、生徒を地域に回帰させることで地域課題に対する当事者意識・地域への帰属意識を育成することが必要であり、そのこ

とによって一度ふるさとを離れた子どもが高い専門性を身につけて再び戻ってくるようになり、地域のコミュニティを再生することができる。

### (3) 学校と自治体・・悩みの根元は同じ

現代社会は高度分業化が進行しており、担当外は関心外という考え方が進んだことによってコミュニティが崩壊し、その結果として学力・主体性・生きる力が低下し、地域・地方の衰退が起こっている。

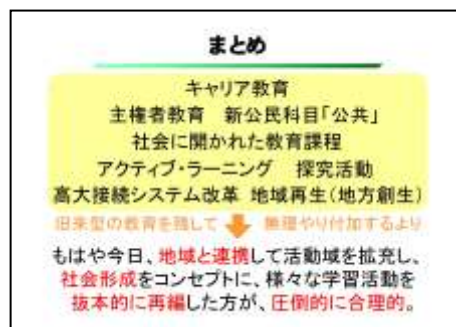
これを解決するためには細かく分断された社会をつなぎ合わせる必要があることから、中教審答申で脱・高度分業化社会／共助再生／アクティブ・ラーニングを目標に掲げた「地域学校協働活動」が打ち出され、学校を含めた子どもに関わる全ての大人たちが地域参加を行い、コミュニティを再生することで子どもたちの学力向上・社会性の向上を目指していくことになっている。



### (4) AL・活路は社会形成を軸とする学びの統合

知識のストックに価値があった時代から知識の絶えざる生産が必要な時間に移行することからアクティブ・ラーニングの導入が求められているが、学校で行う場合は、教科は学問体系に基づき細分化されており、因果関係が確立していることから限界がある。

答えが出ていない、地域のリアルな課題解決にアクティブ・ラーニングを導入することで、生徒を地域の担い手として育成でき、さらに社会の課題に対してどう関わるか、そのためにどんな力をつけることが必要かを考えることでキャリア教育にも繋がっていく。



### (5) 市・高校・大学の連携による新たなキャリアパス

これまで進学校では、国公立大学への受験対策のために生徒を地域から引き離し、学力試験対策のみに注力してきたことから地域への帰属意識が薄く、進学しても地元に戻ることがない子どもを生産する「若者を都会に流出させる装置」としてフル稼働してきており、地域課題とは不連続な就職観、国公立大学への進学のみを考えた進学観、地域の問題解決には無関心で点数を取る以外は無駄だという学習感を植え付けてきた。



今後は市民協働のビジョンを道レベル，市レベルで共有することで学校と地域の連携のハードルを下げて地域への帰属意識を強めるとともに，地域課題と深く関わってきた子どもが然るべき大学に進学できるよう給付型奨学金の給付や地域の大学で推薦枠を作るなどの施策を行い，郷土愛を持った子どもが進学し，高い地域創生力を身につけて地元に戻ってくるような仕組みを作ることが必要。